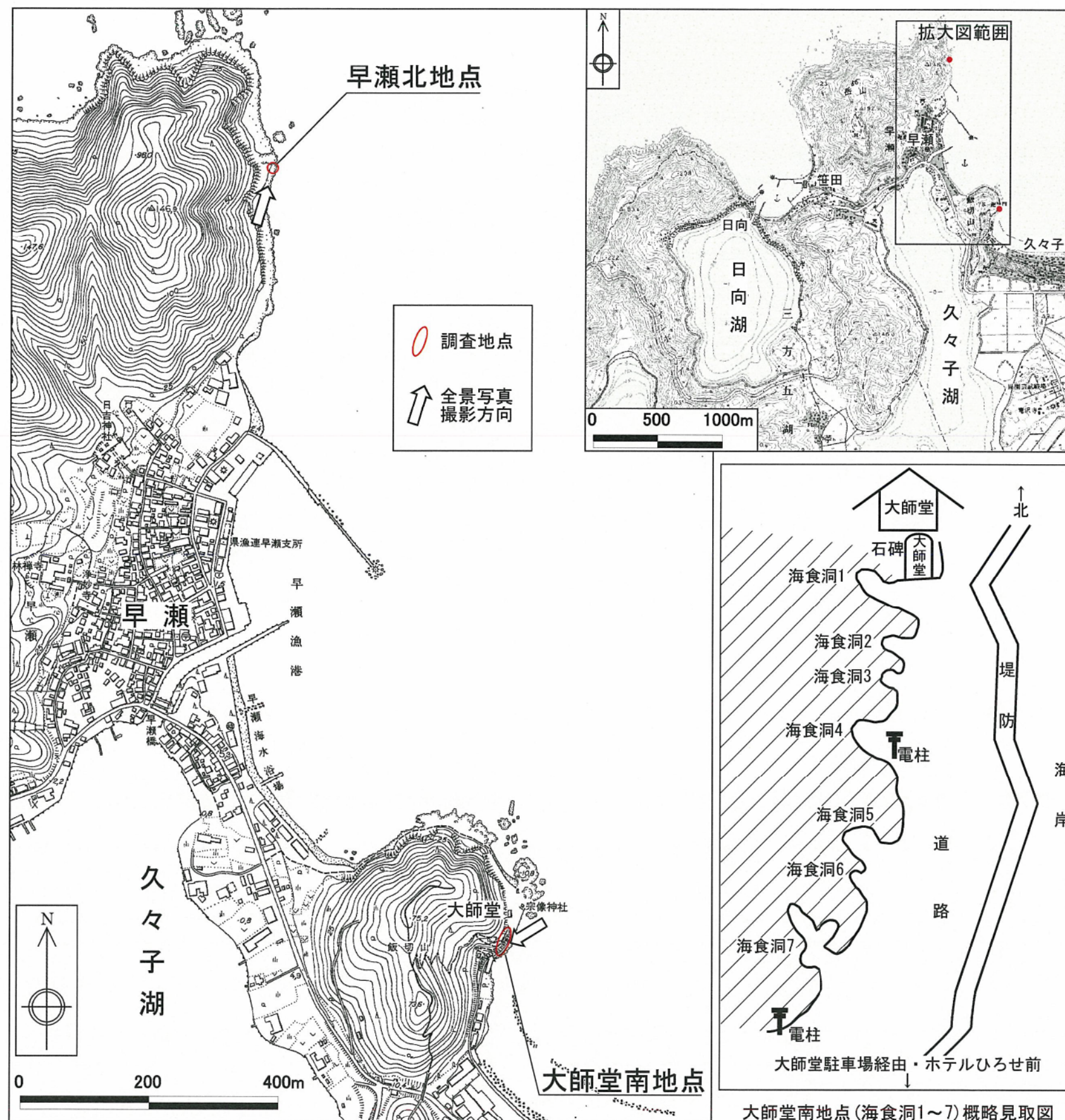


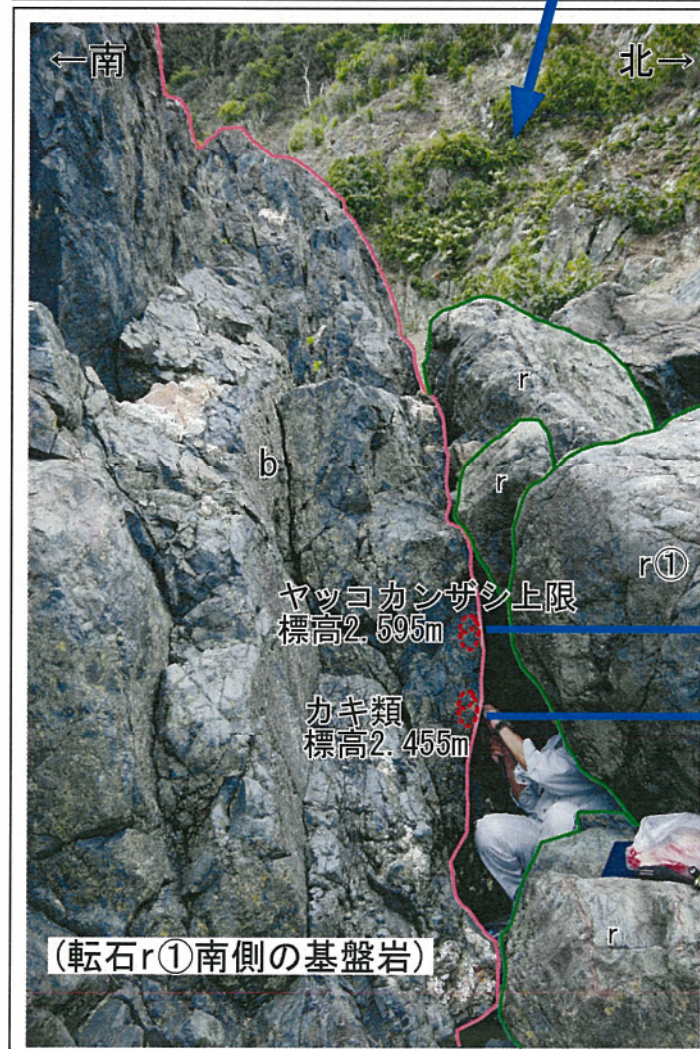
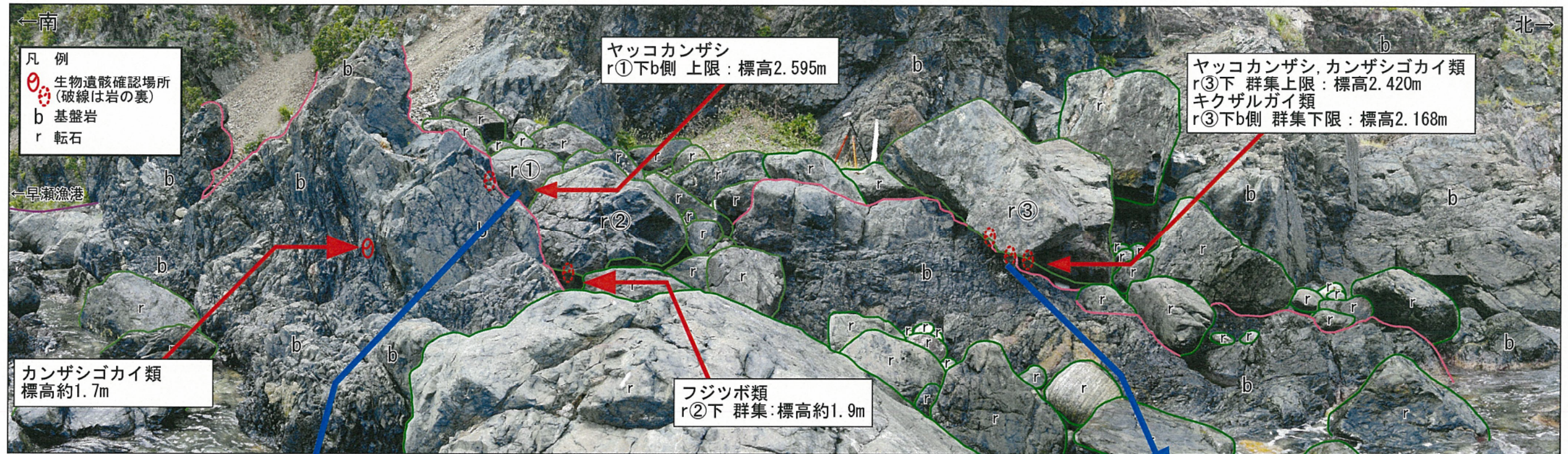


早瀬北地点 全景

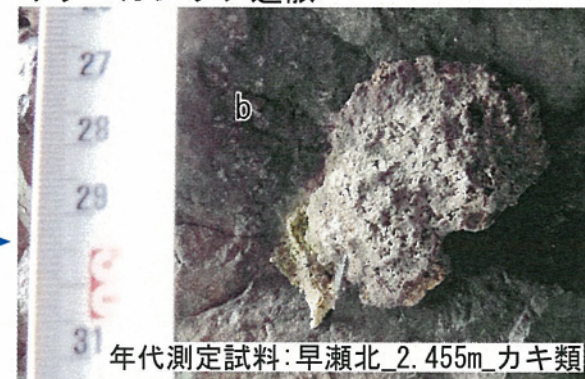


大師堂南地点 (海食洞2～4) 全景

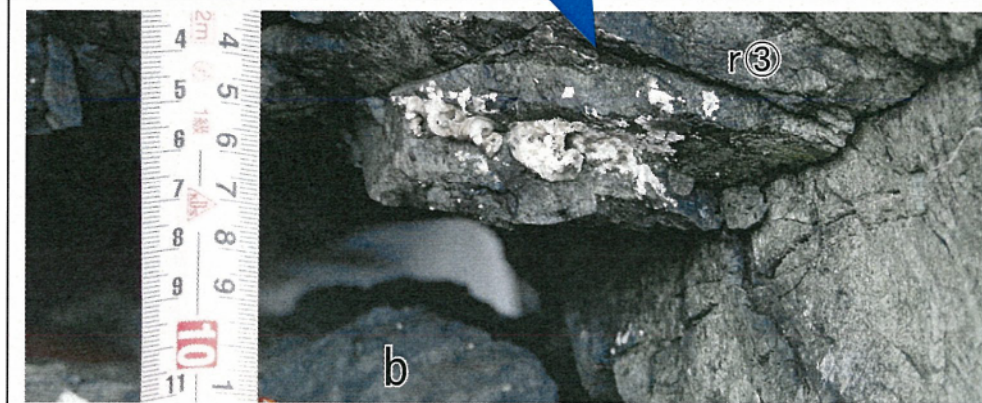
早瀬北地点における離水生物遺骸分布状況



基盤に付着する上限(標高2.595m)のヤッコカンザシ遺骸



年代測定試料: 早瀬北 2.455m カキ類
基盤に付着するカキ類遺骸 (標高2.455m)

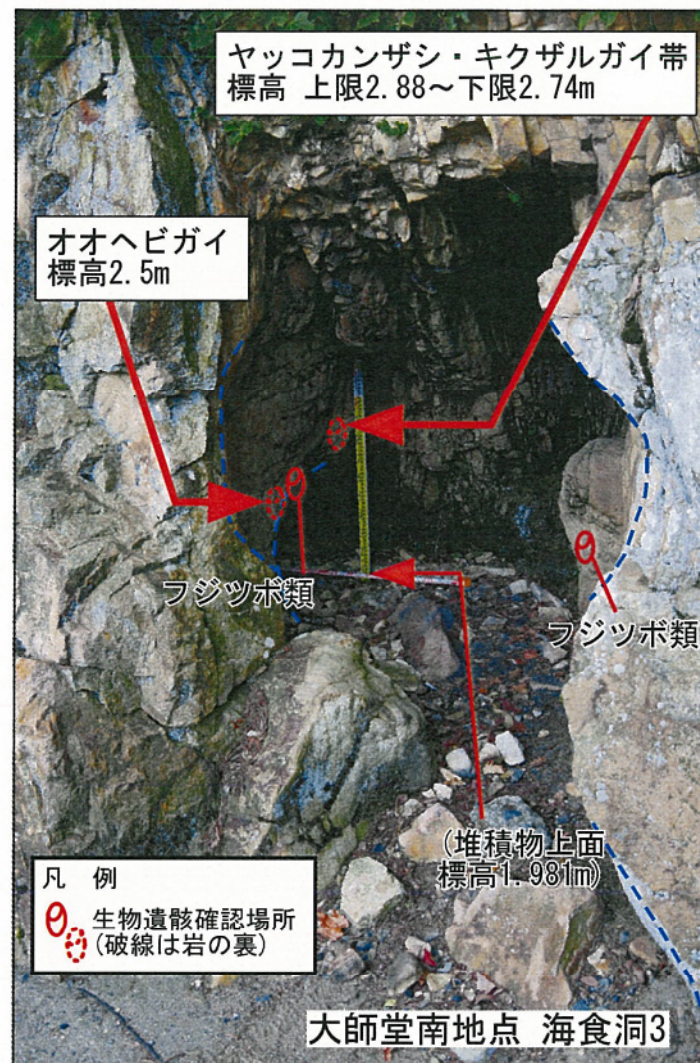


転石r③に付着するカンザシゴカイ類遺骸 (標高2.168~2.420m生物遺骸群集中)



年代測定試料: 早瀬北 2.168-2.420m キクザルガイ類
基盤に付着するキクザルガイ類遺骸 (標高2.168~2.420m生物遺骸群集中)

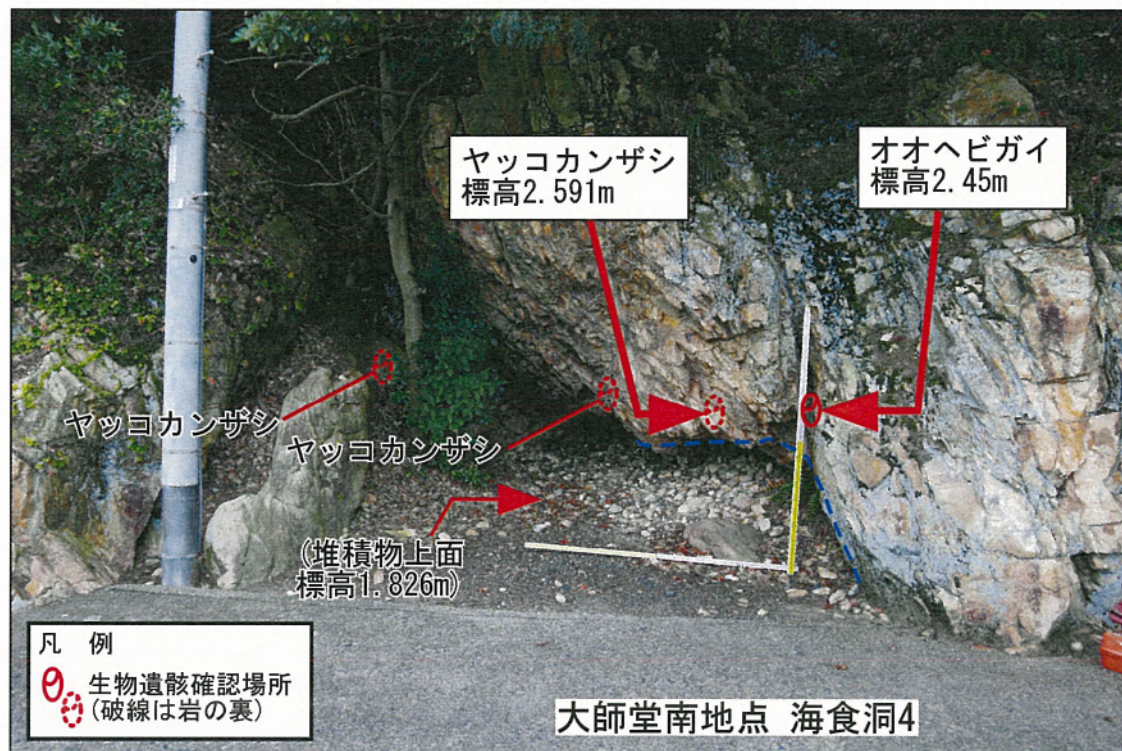
大師堂南地点における離水生物遺骸分布状況



基盤に付着するオオヘビガイ遺骸
(標高2.5m)



基盤に付着するヤッコカンザシ・キクザルガイ類遺骸
(標高2.88～2.74mヤッコカンザシ・ケガキ帯中)



基盤に付着するヤッコカンザシ遺骸
(標高2.591m)

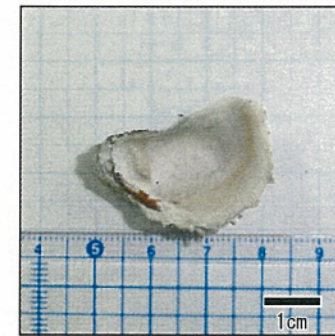


基盤に付着するオオヘビガイ遺骸
(標高2.45m)



早瀬北_2. 168-2. 420m_キクザルガイ類

早瀬北_2. 455m_カキ類



大師堂南3_2. 5m_オオヘビガイ

大師堂南3_2. 88-2. 74m-Y_ヤッコカンザシ

大師堂南3_2. 88-2. 74m-K_キクザルガイ類



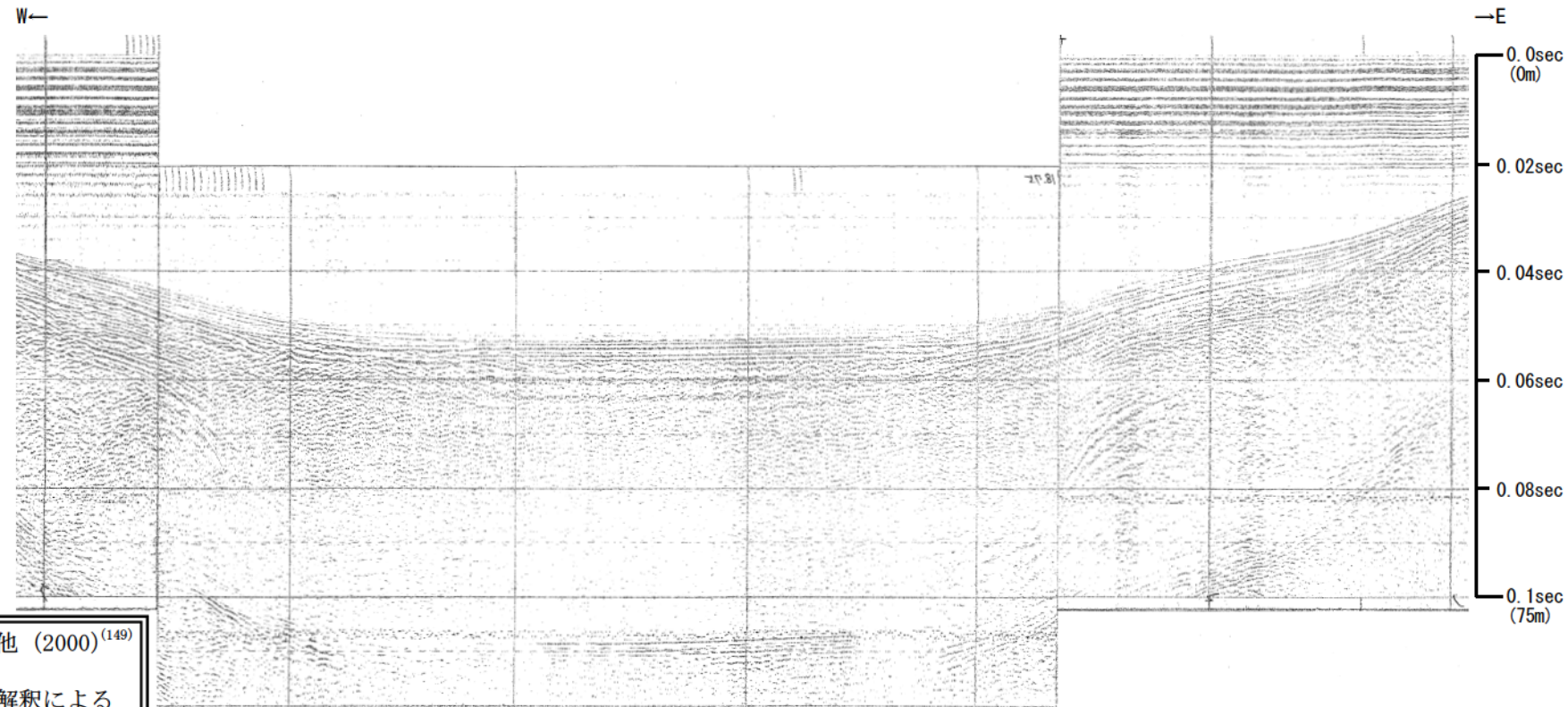
大師堂南4_2. 591m_ヤッコカンザシ

大師堂南4_2. 45m_オオヘビガイ

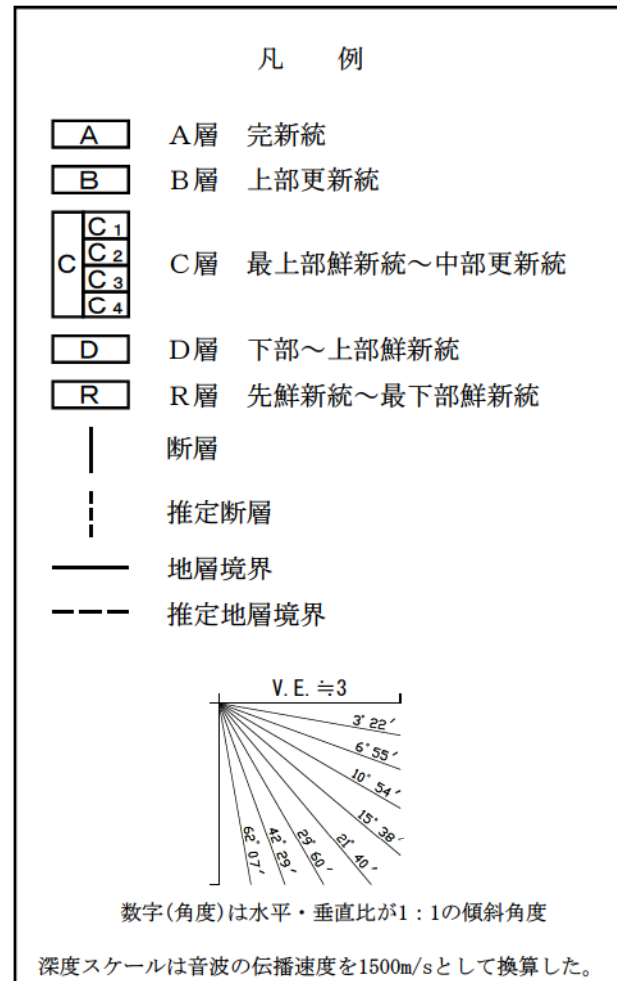
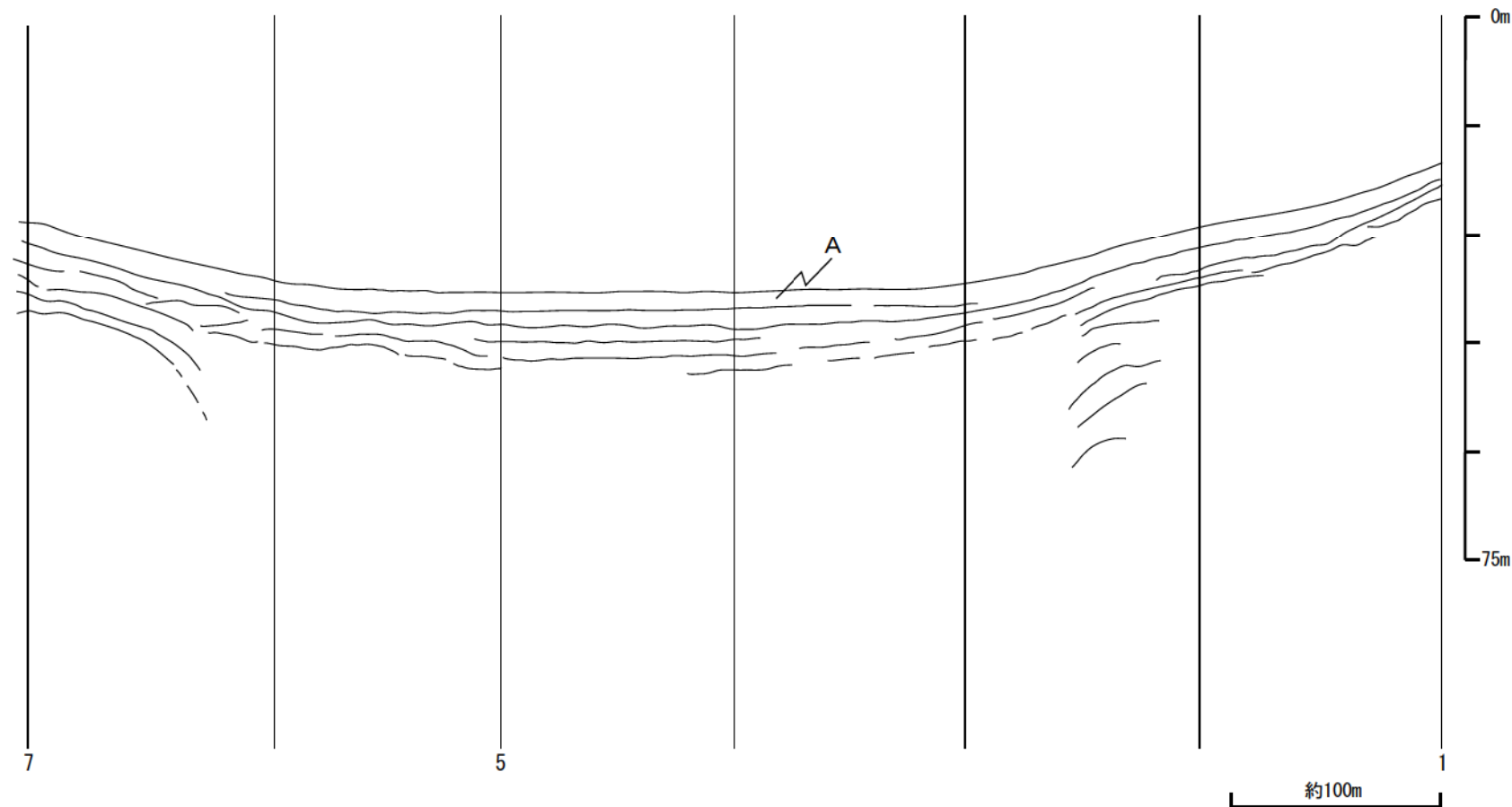
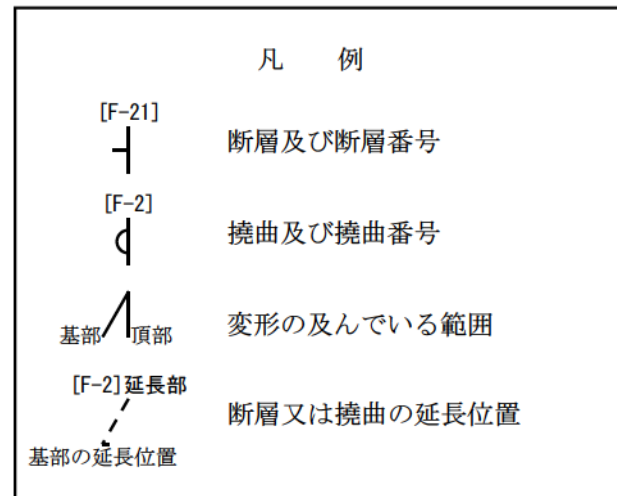
試料名	Libby Age (yrBP)	1σ 暦年代範囲	2σ 暦年代範囲
早瀬北_2. 168-2. 420m_キクザルガイ類	560 ± 20	1697calAD - 1775calAD (55.1%)* 1785calAD - 1804calAD (13.1%)*	1680calAD - 1827calAD (95.4%)*
早瀬北_2. 455m_カキ類	1,100 ± 20	1271calAD - 1313calAD (68.2%)	1237calAD - 1332calAD (95.4%)
大師堂南3_2. 5m_オオヘビガイ	610 ± 20	1663calAD - 1711calAD (68.2%)	1650calAD - 1777calAD (90.2%) 1783calAD - 1805calAD (5.2%)
大師堂南3_2. 88-2. 74m-Y_ヤッコカンザシ	720 ± 20	1549calAD - 1634calAD (68.2%)	1519calAD - 1659calAD (95.4%)
大師堂南3_2. 88-2. 74m-K_キクザルガイ類	620 ± 20	1658calAD - 1696calAD (68.2%)	1623calAD - 1729calAD (92.5%) 1734calAD - 1759calAD (1.8%) 1788calAD - 1802calAD (1.1%)
大師堂南4_2. 591m_ヤッコカンザシ	620 ± 20	1659calAD - 1700calAD (68.2%)	1630calAD - 1765calAD (93.3%) 1785calAD - 1805calAD (2.1%)
大師堂南4_2. 45m_オオヘビガイ	560 ± 20	1695calAD - 1775calAD (55.5%)*	1678calAD - 1825calAD (95.4%)*

ローカルリザーバ効果を考慮せずに得られた暦年代は、1662年寛文地震より新しいものが多い。うち3試料は1662年を範囲に含む。生物を離水させて死滅させたイベントを寛文地震と考え、本海域のローカルリザーバ効果はΔR=0とした。

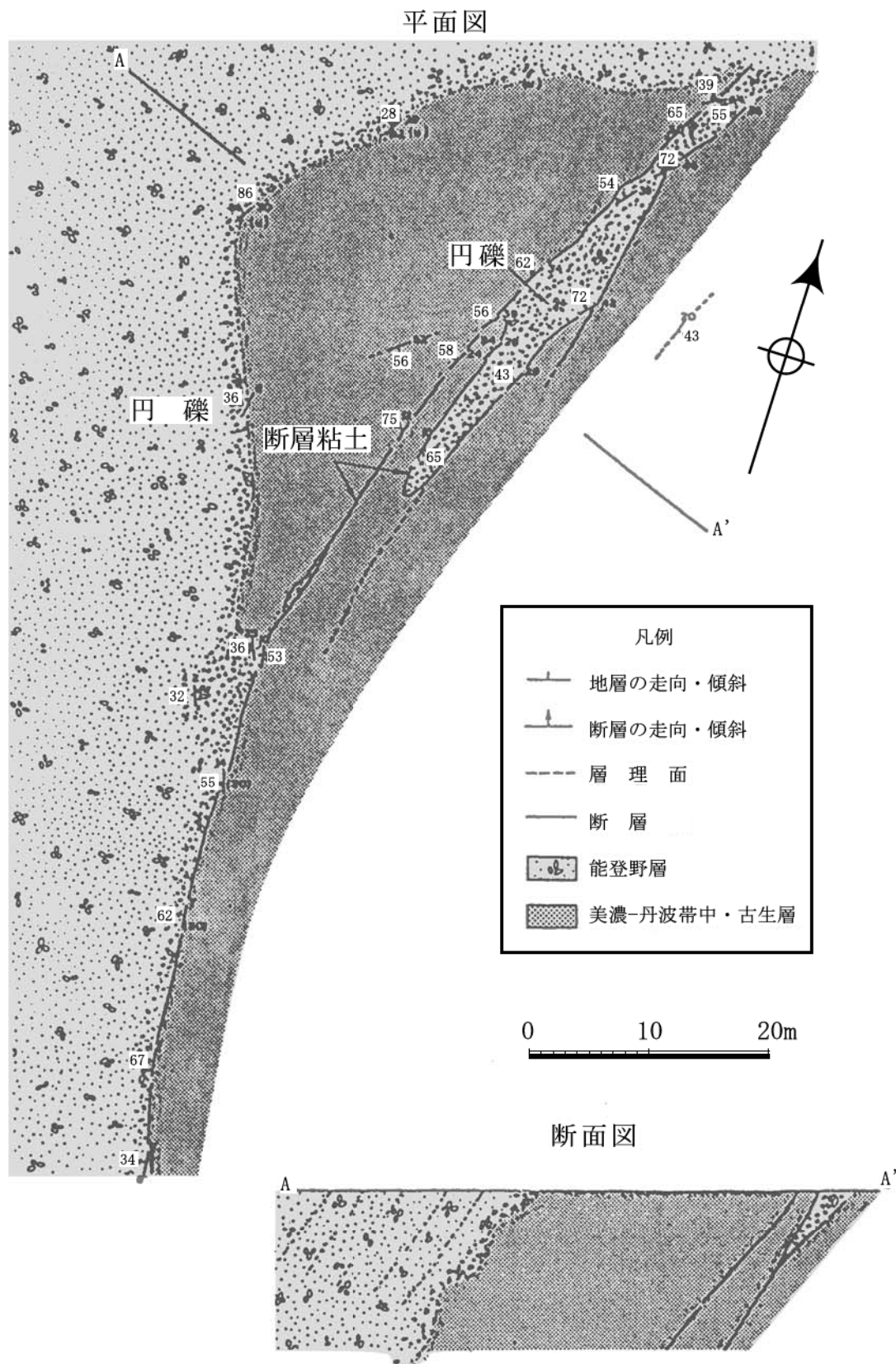
*暦年校正曲線で校正可能な範囲を超える可能性があるため、表示された年代よりも新しい年代の可能性のあるもの。
OxCal v4.2.3 Bronk Ramsey(2013)にてMarine13 marine curve(Reimer et al, 2013)を使用しmarine100%で校正



音波探査記録は、小松原他(2000)⁽¹⁴⁹⁾の原資料である。
地質断面図は、申請者の解釈によるものである。



第1. 3. 178図 日向断層の海上音波探査記録および地質断面図 (H1)



リニアメント付近に能登野層と美濃-丹波帯中・古生層を境する断層が認められ、幅数cm～十数cmの粘土状破砕部を伴っている。能登野層の層理面は断層に近づくに従って急傾斜となり、断層近傍では約60° 西側に急傾斜している。

第1.3.179図 三方断層 相田南方の露头スケッチ (Loc. M-1)